

1.計画名称

工業振興ビジョン

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	<ul style="list-style-type: none"> ・産学公連携事業の技術を応用し、公立諏訪東京理科大学からベンチャー企業が設立されるなど、取組が具現化された。 ・中小企業振興補助金申請件数は見込んでいた数値よりは下回ったものの、大規模案件があり、設備投資の下支えになっている。労務環境等設備補助金は創設以来安定して活用があり、企業からの評価も高い制度となっている。IT関係の立地はワークラボ内に留まっている。 ・人材育成補助金は、申請件数は安定し、確実に支援に繋がっている。 ・新型コロナが収束し、諏訪圏工業メッセや見本市等の再開など、販路開拓が復活しつつある。継続した支援が必要。受注販路補助金やものづくりネットは企業PRIに繋がっている。 ・コワーキングスペースの稼働率は堅調である。今後さらなる利用促進のための施策を実施し、関係人口・交流人口の流入を図っていく。
今後の重点化施策番号	2	説明	<p>税込確保、雇用創出に直接的に効果がある施策であるため、中小企業振興補助事業及び労務環境等改善補助事業を通じ、生産性を高める設備投資に対し後方支援を行っていく。</p> <p>県内外の企業誘致のための整備や空き工場、土地の情報提供を行っていく。</p>

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	産学公等連携事業の推進	おおむね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・茅野市の地域経済活性化は、単一産業の振興のみでなし得るものではなく、国・県機関や各種支援機関との連携を促進する。 また、茅野・産業振興プラザの役割や機能を一層強化し、技術力向上、開発力強化、人材確保・育成など、市内事業者が抱える課題解決や経営基盤強化のために、事業者が産学公等連携に取り組みややすい環境整備と支援制度の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業の継続により、水位計の製品化、事業化に関心を持つ企業参入と具体化を促進していくことが課題。また、販路の確保が課題。 ・産業振興プラザの運営では、企業の情報収集を積極的に進め、関係機関と連携した支援活動につなげていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水位計等の実証結果について検証し、新たな展開による有効活用を検討し、成果の事業化に向けた取り組みを強化する。 ・プラザ運営ではDX、GX、事業承継等といった取り組みが求められる中小企業への受発注支援、情報発信、技術相談等、より関係機関との連携を充実させ対応する。
2	企業の生産基盤強化と立地支援	順調	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業振興補助金申請件数は見込んでいた数値よりは下回ったものの、大規模案件があり、設備投資の下支えになっている。 ・労務環境等設備補助金は創設以来安定して活用があり、企業からの評価も高い制度となっている。IT関係の立地はワークラボ内に留まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地相談や空き工場の問い合わせがあるものの、物件不足等にある。 ・工場のAllIoT化に向けた取組やゼロカーボンに対応した企業の経営基盤強化が急務である。 ・工業団地は、造成から30年を超え、樹木管理等の経費が高む傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業のAllIoT化を促す補助メニューを現行制度で拡充した。GXの補助率も高上げた。 ・災害により企業活動が支障を来さないように工業団地内の計画的な整備を森林税事業や中部電力などと連携を進める。 ・企業の経営基盤強化に向けた国等の補助制度等を促す支援を行う。
3	企業の育成と人材育成	順調	<ul style="list-style-type: none"> ・人への投資は近年企業も注目しており、申請件数は安定し、確実に支援に繋がっている。 ・新型コロナが収束し、諏訪圏工業メッセや見本市等の再開など、販路開拓が復活しつつある。継続した支援が必要。 ・受注販路補助金やものづくりネットは企業PRIに繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足に悩む中小企業にとって、人材育成に取り組む余裕がない状況にある。雇用対策との連携が必要。 ・工業展へ出展する新規企業が少なく、出展しやすい環境づくりが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の人材育成や技術継承は、長期的な視野が必要であり、工業展への出展補助など、市の支援制度の継続は必要である。 ・脱炭素経営、省エネ経営の推進に向け、人材育成補助金でGXの項目を嵩上げしている。
4	新分野・独自技術製品開発等への支援	順調	<ul style="list-style-type: none"> ・コワーキングスペースは、利用促進イベント等の成果から様々な職種の方に利用され稼働率は堅調である。今後さらなる利用促進のための施策を実施し、関係人口・交流人口の流入を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的な環境変化に対応できる企業体質強化のため、企業がインダストリアルチャレンジできる環境づくりを整える必要がある。 ・コワーキングスペースの稼働率は堅調だが、ブースとオフィスが満床であり、新規入居ができない。起業・創業支援に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試作品改良や知財取得のためのメニューを増やしインダストリアルチャレンジを促す。 ・全国的なテレワークやワーケーション等推進の動きを踏まえ、ワークラボハケ岳を拠点として地域のワーケーション推進体制及び広域連携ビジネス交流推進体制を構築する。
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
<p>関連市民団体等名称 工業振興ビジョン推進部会</p> <p>開催回数</p> <p>参加延べ人数</p>	<p>【指標進捗管理時の意見】</p> <p>○製造業は、原材料の高騰が企業経営に深刻な影響を及ぼしている。</p> <p>○市の製造業向け支援制度は、資金繰り、補助金等があるが、事業者周知は必ずしも十分ではない。</p> <p>○市の補助制度を小規模零細企業にも取り組みやすい制度変更を行うとともに、制度メニューを広げていく検討を引き続き行う。</p> <p>○茅野商工会議所や茅野市精密工業連合会、公立諏訪理科大学等とともに連携を強くプレキシブルかつ効果的な支援に向けた制度設計に心掛けていく。</p> <p>○製造業と情報サービス業とが融和した産業構造を目指し、情報サービス業の立地への支援を検討する。</p> <p>○IT関連企業を誘致するための環境づくりを整え、既存製造業との人材、ビジネス交流を促していく。</p>	<p>市の考えや対応など</p> <p>○市では、各種補助制度、融資制度を設け、企業支援を行っている。引き続き、効果的な補助制度の継続、使いやすい制度への見直しを検討していきたいと考える。</p> <p>○重点施策の企業立地、企業誘致、新技術・新商品開発支援、起業・創業支援、人材育成の施策を検討していきたいと考える。</p> <p>※2019年度末の新型コロナウイルス感染症の拡大により、会議開催はなく、書面決議となっている。第3次産業振興ビジョンは6次総の策定に準じて策定することになるため、改定作業時に、改めて意見集約と総括を行いたいと考える。</p>
<p>関連市民団体等名称</p> <p>開催回数</p> <p>参加延べ人数</p>		